

基礎看護学実習 I b

実習目的

日常生活行動の制限や健康障害のある対象の療養環境を考え、日常生活援助の必要性がわかる。

実習目標

1. 対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる。
2. 対象に関心を向け、コミュニケーションを図ることができる。
3. 対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる。
4. スタンダードプリコーションに基づいた感染予防行動が理解できる。
5. チーム医療に参加して、他職種と連携・協働していることがわかる。
6. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動の必要性がわかる。
7. 看護体験を通して看護のあり方を考えることができる。

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
1. 対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる	1) 対象の生活背景がわかる	<p>(1) 受け持ち対象の紹介 ① 対象の情報について指導者より説明を受ける • 受け持ち対象の疾患名、治療方針、禁忌事項、症状、日常生活動作、看護課題、看護目標、看護計画について説明を受ける</p> <p>(2) 情報収集の方法 ① 診療録・看護記録の見方と必要な情報の取り方 ② 知りたい情報を観察やコミュニケーションから得る方法</p> <p>(3) 入院前の健康状態 ① 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報を分類・整理する • 身体的側面：身長・体重など • 心理・社会的側面：家族構成・職業、生活環境など • 認知的側面：学習機能や認知度など • 一日の生活様式(入院前・後)</p>	<p>a. 対象のオリエンテーションを受ける • 受け持ち対象について病態と、その経過や治療、自立度、注意事項について説明を受ける • レントゲン画像などを使用し、必要時説明を受ける • 出現している症状と治療の関係性がわかるように調べる • 対象の看護の方向性と看護計画について説明を受ける</p> <p>b. 診療録、検査データー、看護記録の見方・情報の取り方の指導を受ける</p> <p>c. コミュニケーションを通して必要な情報を対象から情報収集する</p> <p>d. ヘンダーソンのアセスメントガイドを用いて情報を整理する</p> <p>e. 発達段階の身体的・精神的・社会的特徴と発達課題を学ぶ</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	<p>2)病気や治療が対象の日常生活に影響を及ぼすことがわかる</p> <p>3)対象の入院生活行動の情報を得ることができる</p> <p>4)基本的ニードが満たされているかがわかる</p>	<p>(4) 病気・治療の経過・状況 ①基本的欲求を変容させる病理的状態の情報を分類・整理 • 診断名、現病歴、既往歴、 • 症状・検査データー・バイタルサイン • 治療方針・治療内容</p> <p>(5) 基本的欲求の充足状態 ①基本的欲求に関する主観的情報 S／客観的情報 O を以下 5 項目について収集 • 飲食 • 排泄 • 活動・姿勢 • 休息・睡眠 • 衣類・清潔</p> <p>②「体力」「意思力」「知識」の枠組みに収集した情報を分類する</p> <p>③対象の現在の基本的欲求の状態を健康時の状態や標準・平均値、正常値、日常性と比較し充足・未充足の判断をする</p>	<p>f. 健康レベルにおける身体的・精神的・社会的特徴を学習する</p> <p>g. 受け持ち対象の情報収集 • コミュニケーションによる意図的情報収集 • 記録物からの情報収集 • 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件、生活背景の把握 • 基本的欲求を変容させる病理的状態 解剖生理・病態生理・治療症状に伴う看護</p> <p>h. 病気や治療が、日常生活にどのように影響しているか考えてみる</p> <p>i. 基本的欲求に関する情報「体力」「意思力」「知識」に分類して整理</p> <p>j. ヘンダーソンが述べているニードが充足している状態を考える • 対象の普段の生活(入院前)と入院生活を比較してみる</p>
2. 対象に関心を向け、コミュニケーションを図ることができる	1) 対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる	<p>(1) コミュニケーションを図る ①適切な言葉遣いや会話の内容を選択する ②相手から聞きたい内容の目的を持ち対象と会話ができる ③対象に関心を向け、傾聴する姿勢をもち、ありのまま話の内容を受け止める ④対象の状況(健康状態・検査処置・面会者など)や日課・生活リズムを考えコミュニケーションの場、雰囲気作り、時間の工夫をする</p>	<p>a. 関係構築のためのコミュニケーションの基本を復習する • 接近的・非接近的行動 • 言語的・非言語的コミュニケーション</p> <p>b. 場や時間の工夫</p> <p>c. 共感的態度・傾聴</p> <p>d. 他者への関心</p> <p>e. 状況や状態の把握と判断</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	<p>2) 対象が病気や治療、入院生活に対して感じていることがわかる</p> <p>3) 倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる</p>	<p>②入院生活や病気・治療に関する対象の精神面への影響を考える ①対象との会話・表情・態度・行動を観察する ②対象の話す内容を受け止め入院生活や病気、治療に対する思いを知る ③対象の価値観があることを感じ取る (3) 思いやる行動がとれる ①対象の反応を捉え自己の行動を調整する ②説明と同意の確認 ③了解了承を得てから看護援助の実施をする ④プライバシーに配慮した行動をとる ⑤対象を尊重した態度で接する</p>	<p>a. 対象の思いに触れその意味を考えてみる b. 他者と自分の価値観の違いを知る</p> <p>a. 対象の価値観の尊重 b. ねぎらいの言葉掛け c. 対応が困難な時、判断がつかない時は、指導者・教員へ相談し迅速な対応を図る d. プライバシーへの配慮</p>
3. 対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる	<p>1) バイタルサインの測定ができ、対象の状態をアセスメントできる</p> <p>2) 対象の療養環境をアセスメントし病室・病床の環境調整・環境整</p>	<p>(1) 日常生活の援助の実際を看護師について次の場面に参加する ① バイタルサイン測定と観察(変動因子の確認と随伴症状の有無を観察) 体温の測定と随伴症状 脈拍・呼吸測定と随伴症状 血圧測定と随伴症状 ② 正常異常の判断(基準値、日常性と比較し判断する) ③ 測定値と観察からアセスメントし看護援助を実施してよいか、中止すべきかの判断をする (2) 対象の病室・病床環境を観察し環境の整え方・調整を考える ・ 安全であるか ・ 対象の現状にあっていいるか</p>	<p>a. 対象の看護計画を見て、援助内容を確認する。情報収集で未充足と判断した基本的ニードに看護援助がどの様に実施されていたか確認する b. 生活と看護が深く結びついていることを理解する c. 血圧測定が正確に測れているか二股聴診器を用い測定する d. バイタルサイン・観察により異常の判断、日常性と比較し看護援助を実施してよいかの判断とその根拠を考える e. 食事・排泄・清潔・休息を行うときの環境の整え方と援助方法 f. 援助技術は科学的根拠に基づき原理原則に沿って実施して</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
3)看護師と共に 対象の日常生活 援助が実施でき る	備ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔であるか ・物品は十分で適切か ①病室・病床環境を観察 ・食事環境、排泄環境、睡眠・休息環境、転倒転落防止のための環境になっているかアセスメントする ②環境は満たされていたか、調整が必要かをアセスメントする ・プライバシーの保護、個室、多床室の違い、音、臭気、採光、室温湿度、病室の空間、ベッドの高さ、柵の設置、床、コミュニケーションの場 (3)観察した結果、環境調整技術の援助の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・実施前、対象への説明と同意 ・必要物品の準備、後片付け ・終了したことを対象・指導者に報告 ①対象のベッド周囲・床頭台の整理整頓を行う <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドメーキング ・埃・塵の除去 ・ナースコールの位置 ・ベッド柵の位置 ・私物の置き場所の確認(ティッシュペーパー、湯のみなど) ②対象の病室環境を調整する <ul style="list-style-type: none"> ・食事、排泄、睡眠休息環境 (4)対象の一日の過ごし方 <ul style="list-style-type: none"> ①日常生活動作の自立度 ②健康障害・健康レベルから日常生活(食事・排泄・活動・清潔保持)の状態把握 (5)日常生活援助の実施 <ul style="list-style-type: none"> ①食事、排泄、清潔、移動移送などの場面で看護師と一緒に 	<p>いることを確認する</p> <p>g.日常生活援助(食事・排泄・清潔・移動移送)の援助方法・手順の確認</p> <p>根拠と留意点を把握</p> <p>h.日常生活の自立度に応じた援助方法の検討</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		<p>準備・実施・後片付けまで援助に参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要物品の準備 ・手順・根拠・留意点を確認してから実施 ・後片付け <p>②看護師の実践している看護が何のために行われているのか考える</p> <p>③対象の安全・安楽と自立に応じた援助方法であることを確認する</p>	
4.スタンダードプリコーションに基づいた感染予防行動が理解できる	1)感染予防のための行動がとれる 2)医療廃棄物の処理法の実際を理解できる	<p>(1) 感染予防行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①一処置一手洗いの実施 ②手指衛生 ③便・尿・血液の付着したものの取り扱い <p>(2)個人防護用具</p> <ul style="list-style-type: none"> ①手袋・エプロン・マスクの着用方法と外し方 ③医療廃棄物の分別方法 ④感染性廃棄物のバイオハザードマークに基づいた処理(分別) 	a.スタンダードプリコーション b.手洗い・擦式消毒 c.リネン汚染(便・尿・血液) d.病原菌による消毒薬の違い e.ディスポーザブル手袋、エプロン、マスクの着脱方法 f.感染性廃棄物の分別と表示 <ul style="list-style-type: none"> ・バイオハザードマーク ・感染性廃棄物の取り扱い時の注意点
5.チーム医療に参加して、他職種と連携・協働していることがわかる	1)他の職種と協働している場面に参加し看護師の役割がわかる 2)チームの一員として責任ある行動がとれる	<p>(1)他職種との協働・連携場面に参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟カンファレンスに参加している職種と内容の確認 ・リハビリカンファレンスに参加している職種と内容の確認 ・栄養指導 ・看護と介護の連携 <p>日常生活行動を支援する看護介護の連携の説明を受け場面の観察をする</p> <p>(2)看護師の役割を考える</p> <p>(1) 誰に、いつ、報告すべきかを判断し、時期を逃さずに報告する</p>	a.他職種チームとしての情報共有と継続的な関わり b.看護師の役割を考える <ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有 ・健康回復・維持するための支援 ・他職種間との調整役割 a.報告・連絡・相談 b.情報の共有 c.客観的・主観的情報

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		<p>(2)自分で解決できない時、判断に迷う時は相談する</p> <p>(3)場にふさわしい挨拶・身だしなみ・言葉遣いをする</p> <p>(4)指導・助言を素直に聞く姿勢を示す</p> <p>(5)プライバシーに配慮し、知り得た情報を外部に漏らさない</p> <p>(6)実習メンバーと協力し学習を進める</p>	<p>d.守秘義務、プライバシーの保護</p> <p>e.リーダーシップ・メンバーシップ</p> <p>f.規律・規範を守る ・挨拶、身だしなみ ・言葉遣い ・約束事を守る ・自己の健康管理</p> <p>g.他者の意見を聴き入れ、自分の意見も伝える</p> <p>h.学生間の協力・協調</p> <p>i.学生間の情報の共有</p>
6.看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動の必要性がわかる	<p>1)自己の課題の解決、目標達成に向けて取り組むことができる</p> <p>2)継続して学習する姿勢を有している</p>	<p>(1)実習の目的・目標、実習方法を理解する</p> <p>(2)学生自己評価表を用いて適切に評価する</p> <p>(3)自己の課題を明らかにする</p> <p>(4)目標を定め、課題を解決する方法を示す</p> <p>(5)課題解決のための行動を示す</p> <p>(6)カンファレンスで自己の考えを述べる</p> <p>(7)自己の技術レベルを認識し積極的に技術練習を行う</p> <p>(1)学習の習慣化</p> <p>(2)積み上げ学習</p> <p>(3)看護職としての自己研鑽の必要性</p> <p>(4)興味関心を示し主体的に学ぶ姿勢</p>	<p>a.既習の学習が看護の実践で活用されていることを確認</p> <p>b.自己課題を持って学習に取り組む</p> <p>c.目標達成に向け指導者・教員へ自ら助言を求める</p> <p>d.文献・既習学習を活用し学習を深める</p> <p>e.仲間に助言を求める</p> <p>a.自己の生活行動、学習行動の特徴や傾向を知る</p> <p>b.自己の傾向を認識し行動を変容させる</p> <p>c.変容した姿を他者にわかるように示す</p> <p>d.常に既習学習、学習ノート、文献の活用をする</p> <p>e.看護学生倫理要領の意味を理解する</p> <p>f.事前学習・事後学習に取り組む</p>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
7.看護体験を通して看護のあり方を考えることができる	1)実習での学びから、看護に対する自分の思い考え方を述べることができる 2)相手の意見を聞き、自分と他の違いを知り、自己の学びを発展させる 3)リフレクションを行い、根拠を示し看護に対する自己の考えを記述できる	(1)看護に対する自分の思い、考え方を他者が聴いてわかるように述べる (2)相手の意見を聞き、自分と他の違いを知り、自己の学びを発展させる (3)リフレクションを行い、根拠を示し看護に対する自己の考え方を記述できる	a.看護の理論を参考に(ヘンダーソン)実習の学びを通して「看護とは」を考え、自分の言葉で表現する b.看護の主要概念を確認する c.受け持ち対象を通して学べたことを整理する d.自己の課題を明確にする

実習方法

1. 対象の選定

- 1) 言語的コミュニケーションが可能である。
- 2) 日常生活の援助を必要とする。
- 3) 病状が安定しており、病態が複雑ではない。

2. 実習の進め方

分類	行動予定	学習内容	実習記録
事前準備・事前学習	<p>1. 実習全体オリエンテーション</p> <p>2. 基礎看護学実習 I b オリエンテーション</p> <p>3. 実習施設の集合時間・場所の確認</p> <p>4. 実習準備学習の確認</p> <p> 1) 病棟の特徴、概要、病棟に多い対象の疾患について解剖生理の復習をする</p> <p> 2) 実習・演習の援助計画書を確認し練習</p> <p> ①バイタルサイン測定と身体診査</p> <p> ②清拭と寝衣交換 ③体位変換</p> <p> ④環境整備・ベッドメーキング</p> <p> ⑤食事介助</p> <p> 3) 受け持ち対象の情報収集・コミュニケーションについて</p> <p> ①基本情報（常在条件）②病理的状態</p> <p> ③基本的看護の構成要素 14 項目</p> <p>5. 実習初日の行動計画表の立案</p> <p>6. 環境整備・ベッドメーキングの看護技術カードの記載</p> <p>7. カンファレンスの進行について</p>	<p>臨地実習要綱を持参する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に学生心得について把握しておく <p>基礎看護学実習要綱を持参する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的目標・行動目標・実習内容を把握 ・実習での持ち物の確認(指定ユニフォームナースシート、筆記用具、メモ帳、臨地実習要綱・基礎看護学実習要綱、行動計画表技術経験録、自己評価表、出席簿) <p>病棟実習 1 日目の行動計画表、環境整備・ベッドメーキングの看護技術カードの指導を受ける</p> <p>※自己学習ノートの作成</p> <p>※基礎看護学実習 I a と同じ病棟で実習をすることを基本とする</p>	<p>様式 1-1</p> <p>様式 1-2 (ベッドメーキング)</p> <p>実習開始の前週で提出する</p>

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習 1日目	<p>9:00～15:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟へ全員揃って挨拶 　　指導者紹介 行動計画の発表 ・病棟オリエンテーション ・カルテの見方の説明を受ける 　　情報の取り方・見方、注意事項 ・対象紹介（事前に対象選定） 　　どの学生がどの対象を受け持つのか指導者に報告する ・対象へ挨拶し関係性を築く ・食事の準備と配膳見学 ・記録類から情報収集 ・受け持ち対象とのコミュニケーション <p>15:00～16:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生カンファレンス 　　本日の振り返りと翌日の行動調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・更衣室で着替え、身だしなみを整え、実習病棟に行き挨拶する ・I a 実習で説明を受けているが補足説明を受けながらのオリエンテーションで、不明な点は質問して確認する ・対象情報の取り扱いに関する注意事項の説明を受ける ・受け持ち対象の疾患名、治療方針、治療内容 禁忌事項の説明を受ける ・カルテより必要な情報をとる ・不明な点は、積極的に質問して確認する ・自分から進んでコミュニケーションをとる ・受け持ち対象の必要な情報が収集できたか確認する ・受け持ち対象の受けている看護援助がわかるよう、病棟の看護方針・看護計画を確認する 	<p>様式 1-1</p> <p>本日の目標</p> <p>実施計画</p> <p><帰宅後></p> <p>様式 1-1</p> <p>実施内容・考察</p> <p>様式 1-3</p> <p>翌日の様式</p> <p>1-1</p> <p>本日の目標</p> <p>実施計画</p> <p>様式 1-5</p>
病棟実習 2日目	<p>9:00～15:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟へ全員揃って挨拶 ・行動計画の発表 行動調整 ・情報収集 ・バイタルサイン測定と観察 ・環境整備の実施 ・昼食準備 配膳・下膳 ・実施前後に手指衛生の実施 　　スタンダードプリコーションの実施方法 ・受け持ち対象を担当する看護師とともにケアの見学・参加をする ・ケア見学以外の時間で情報収集する ・受け持ち対象とのコミュニケーション ・実施見学した内容の指導者への報告 <p>15:00～16:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生カンファレンス 　　本日の振り返りと翌日の行動調整 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 前日の情報から、対象の状況に合わせた行動計画を記載する ・本日の目標は対象の状況を考えて立案する ・対象に行われている援助の目的を考える 2) 受け持ち対象に行われている看護援助を見学し対象に行われている援助について考える ・バイタルサインの測定、観察項目の確認 ・予定されている日常生活援助の内容 ・行われている治療や検査内容 3) 対象の療養環境について確認 ・療養環境の観察の視点 ・室温、湿度、臭気、明るさ ・ベッド周囲の環境（清潔度、整理整頓） ・リネン、寝衣の状況、プライバシーの確保 ・転倒・転落予防を考えた環境整備 4) ヘンダーソンのアセスメントガイドを基に情報を得ながら、隨時様式 1-5「体力」「意思力」「知識」で情報を整理していく 	<p>様式 1-1</p> <p>様式 1-3</p> <p>提出</p> <p><帰宅後></p> <p>様式 1-1</p> <p>実施内容・考察</p> <p>翌日の</p> <p>様式 1-1</p> <p>本日の目標</p> <p>実施計画</p> <p>様式 1-3 修正・追加分の記録</p> <p>様式 1-5</p>

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習3日目	<p>9:00～15:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟へ全員揃って挨拶 ・行動計画の発表 行動調整 ・見学あるいは実施したいケアの内容を行動計画に基づいて発表する ・ベッドメーキング、環境整備の実施 ・指導者または教員と共にケアと一緒に実施する（指導の下、清潔の援助、食事介助、移乗・移動介助） ・バイタルサインの測定 ・実施見学した内容の指導者への報告 <p>15:00～16:00</p> <p>学生カンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助実施後の振り返りを指導者と行う ・翌日の行動調整 	<p>1) 対象の状態を観察する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定、身体診査 <p>2) 対象の日常生活の状態を把握できたか確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔・衣生活の観察の視点 ・食事・排泄の観察の視点 ・姿勢・活動、休息・睡眠の観察の視点 ・日常生活動作を観察し自立度と生活行動を把握する ・一日の生活様式（生活リズムや日課） ・対象の日常生活の制限 <p>3) ヘンダーソンのアセスメントガイドを基に情報を得る</p> <p>4) 基本的欲求に関する主觀的情報 S・客觀的情報 O を「体力」「意思力」「知識」の枠組みに分類する</p> <p>5) ヘンダーソンが述べているニードの充足している状態を踏まえ、標準・平均・正常・日常性と比較して充足・未充足の判断をする</p>	<p>様式 1-1</p> <p>様式 1-2</p> <p>様式 1-3 修正</p> <p>正・追加分</p> <p>様式 1-5</p> <p>提出</p> <p><帰宅後></p> <p>様式 1-1</p> <p>様式 1-2</p> <p>様式 1-3 修正</p> <p>正・追加分</p> <p>の記録</p> <p>様式 1-5</p>
病棟実習4日目	<p>9:00～15:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟へ全員揃って挨拶 ・行動計画の発表 行動調整 ・見学あるいは実施したいケアの内容を行動計画に基づいて発表する ・不足の情報を確認し、進める ・対象とのコミュニケーション ・バイタルサインの測定 ・指導者または教員と共にケアと一緒に実施する（指導の下、清潔の援助、食事介助、移乗・移動介助） ・実施見学した内容の指導者への報告 <p>15:30～16:00</p> <p>・学生カンファレンス</p> <p>実習目的に添いながら、気づきや感じたこと、考えたことを述べる</p> <p>・病棟スタッフおよび受け持ち対象への挨拶</p>	<p>1) 3日目と同様</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験できなかった項目や不足の内容を考え、実践する <p>2) 受け持ち対象の本日の体調をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続した状態の把握（夜間の状況をカルテから情報収集する） <p>3) 受け持ち対象における看護援助の意味を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助の目的は対象にとってどうであったか ・援助は対象にどのように影響したか ・対象の安全性・安楽・自立をどのように考えるか ・観察は対象に即した内容で、バイタルサイン測定が原理原則に基づき、正確に測定できたか ・身体的・精神的・社会的側面から対象をどのように捉えることができたか 	<p>様式 1-1</p> <p>様式 1-2</p> <p>様式 1-3、1-5 修正・追加分</p> <p>提出</p> <p><帰宅後></p> <p>様式 1-1</p> <p>様式 1-2</p> <p>様式 1-3,1-5 修正</p> <p>正・追加分</p> <p>の記録</p>

分類	行動予定	学習内容	実習記録
実習 5日目 (学内学習)	実習全記録 自己学習ノート 技術経験録 リフレクションシート 実習自己評価表	1) 4日間の受持ち対象との関係を振り返る ・行った援助を振り返ることの大切さ ・対象と自己との関係性について振り返る ・対象の思いや考えの気付き ・わからない点は質問し目標達成に向けて意欲的に取り組むことができたか ・リフレクション（自己の課題・自己の看護観）	実習全記録

3. 看護技術の経験

確実に実施◎ 実施(見学)○

	技術項目	水準		技術項目	水準
◎	バイタルサイン測定	実施	○	清拭・洗髪・手足浴	実施
◎	病床環境の整備・調整	実施	○	シャワー浴	実施
◎	ベッドメーキング	実施	○	食事の準備 食事配膳・下膳	実施
◎	リネン交換	実施	○	車椅子・ストレッチャー移乗・移送	実施
◎	手指衛生	実施	○	移動(体位変換)	実施
◎	医療廃棄物の処理方法	実施	○	排泄援助(床上排泄)	実施

4. その他

- 1) 基礎看護学実習 I a と原則同じ病棟に学生を配置する。
- 2) 学生に同行し助言・指導しながら実習を進める。
- 3) 学生は 2 名 1 組で行動する。
- 4) 記録に関して
 - (1)行動計画表（様式 1-1）は学生ペアで「実施項目・目的」を共有し、個々の学生が立案・評価を行う。
 - (2)看護技術カード（様式 1-2）は、「ベッドメーキング・環境整備」と「生活援助技術 1 つ」について個々の学生が立案・評価を行う。
 - (3)基本情報(様式 1-3)、フローシート(様式 1-4)、看護過程アセスメント用紙(様式 1-5)は、個々の学生が記述する。
- 5) 評価に関して
 - (1)中間評価なし。
 - (2)基礎看護学実習 I b 評価点 60 点。

5. 実習スケジュールと基礎看護学実習 I b 記録用紙一覧

様式No	用紙名	スケジュール
1-1	行動計画表	毎日記載
1-2	看護技術カード(ベッドメーキング・環境整備、生活援助技術の1つ)	生活援助技術については、実習3・4日目の間で記載
1-3-1	基本情報(常在条件)	実習2日目
1-3-2	基本情報(病理的状態①)	実習2日目
1-3-3	基本情報(病理的状態②)	実習2日目
1-4	経過一覧表(フローシート)	バイタルサイン測定時に記載
1-5	アセスメント用紙	実習3日目以降
1-9	引用・参考文献	病棟実習終了後
1-10	リフレクションシート	

6. 実習記録・その他 提出ファイルの綴り方

<クリアファイル>

上から

- 1) 学生自己評価表(原本)
- 2) リフレクションシート(コピー)
- 3) 看護学実習評価アンケート(学生用)
- 4) 臨地実習出席簿
- 5) 看護技術経験録

<実習ファイル>

上(表紙) 【提出記録と綴り順番】



- 1) リフレクションシート(様式1-10 原本)
- 2) 学生自己評価表(コピー)
- 3) 学習行動自己評価表(基礎Ib実習用)
- ※ 1) ~3)は、各々クリアブックに入れる
- 4) 行動計画表 (様式1-1) 前から日付順に綴る
- 5) 看護技術カード (様式1-2) 前から「ベッドメーキング・環境整備」「生活援助技術」の順に、各々クリアブックに入れて綴る
- 6) 基本情報 (様式1-3-1~3)
- 7) フローシート (様式1-4)
- 8) アセスメント用紙 (様式1-5)
- 9) 引用・参考文献 (様式1-9)
- ※ 4) ~9)には、インデックスをつける
- 10) 自己学習ノート

下

基礎看護学実習 I b 評価表 【 学生自己評価 】

		学籍番号	学生氏名							
実習施設	病院	病棟	実習期間	平成	年	月	日	～	月	日
No	評価項目							最終	割合	
I. 対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる										
対象の理解	1	対象の生活背景がわかる								
	2	病気や治療が対象の日常生活に影響を及ぼすことがわかる								
	3	対象の入院生活行動の情報を得ることができる								
	4	基本的ニードが満たされているかがわかる								
II. 対象に関心を向け、コミュニケーションを図ることができる										
援助的関係	5	対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる								
	6	対象が病気や治療、入院生活に対して感じていることがわかる								
	7	倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる								
III. 対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる										
日常生活	8	バイタルサインの測定ができ、対象の状態をアセスメントできる								
	9	対象の療養環境をアセスメントし病室・病床の環境調整・環境整備ができる								
	10	看護師と共に対象の日常生活援助が実施できる								
IV. スタンダードプリコーションに基づいた感染予防行動が理解できる										
予感防染	11	感染予防のための行動がとれる								
	12	医療廃棄物の処理法の実際を理解できる								
V. チーム医療に参加して、他職種と連携・協働していることがわかる										
のチーム	13	他の職種と協働している場面に参加し看護師の役割がわかる								
	14	チームの一員として責任ある行動がとれる								
VI. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動の必要性がわかる										
研自鑽己	15	自己の課題解決、目標達成に向けて取り組むことができる								
	16	継続して学習する姿勢を有している								
VII. 看護体験を通して看護のあり方を考えることができる										
の看確護立観	17	実習での学びから、看護に対する自分の思いや考えを述べることができる								
【評価基準】 5 : できる (助言をほとんど必要とせずにできる) 4 : だいたいできる (助言をすればできる) 3 : 努力を要す (繰り返し助言をすればできる) 2 : 助言をしてもできないことが多い 0 : 助言してもできない										
評価点 /60点 時間数 /30h										
自己評価										

基礎看護学実習 I b 評価 ガイダンス

	評価項目	評価内容	評価基準
対象の理解	I. 対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる	1. 対象の生活背景がわかる	1) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報を分類・整理できている 2) 対象の生活背景(家族・職業・生活習慣・生活環境など)の特徴を捉えていることができる
		2. 病気や治療が対象の日常生活に影響を及ぼすことがわかる	1) 基本的欲求を変容させる病理的状態の情報を分類・整理できている 2) 対象の健康レベルを理解できている 3) 病理的状態から、疾病の原因・症状、治療・検査の文献学習ができる
		3. 対象の入院生活行動の情報を得ることができる	1) 健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を収集することができている 2) 基本的看護の構成要素 14 項目の情報を「体力」「意思力」「知識」で分類し整理することができている
		4. 基本的ニードが満たされているかがわかる	1) 対象の入院前の生活習慣と現在の生活行動の比較、健康時の状態や標準値と比較し、基本的ニードの充足・未充足を判断することができている 2) 基本的ニードが未充足と判断した理由を記述することができている
援助的関係の形成	II. 対象に関心を向け、コミュニケーションを図ることができる	5. 対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる	1) 対象の行動予定、病状を確認してからコミュニケーションを図ることができている 2) 適切な言葉遣いや会話の内容を考え話すことができている 3) コミュニケーションの場や雰囲気作り・時間の工夫ができている
		6. 対象が病気や治療・入院生活に対して感じていることがわかる	1) 対象の話をありのまま受け止めながら会話することができている 2) 対象が病気や治療・入院生活で感じていることを知ることができている
		7. 倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる	1) 判断・行動する際には、相手の了解了承を得ることができている 2) 対象の反応を捉え自己の行動を調整することができている 3) プライバシーに配慮した行動がとれている
日常生活援助	III. 対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる	8. バイタルサインの測定ができ、対象の状態をアセスメントできる	1) バイタルサインを正確に測定できている 2) 測定した値を基準値・日常性と比較して正常か異常の判断ができる 3) その後の看護援助を実施してよいか、中止すべきかの判断とその理由を述べることができている
		9. 対象の療養環境をアセスメントし病室・病床の環境調整・環境整備ができる	1) 対象の一日の過ごし方がわかっている 2) 日常生活行動における自立度を確認することができている 3) 対象に応じた環境調整・環境整備ができる

	評価項目	評価内容	評価基準
		10. 看護師と共に対象の日常生活援助が実施できる	1) 病棟の看護計画を用い、対象に行われている日常生活援助を確認することができている 2) 基本的ニードの未充足部分と実施されている援助の必要性を関連付けて述べることができている 3) 実施する看護技術の原理・原則を踏まえた事前学習ができている
感染予防	IV. スタンダードプロトコーションに基づいた感染予防行動が理解できる	11. 感染予防のための行動がとれる	1) 手洗い・擦式消毒の実施ができている 2) 一処置一手洗いの実施ができている 3) 指導の下、便・尿・血液など感染対象物を適切な方法で取り扱うことができている
		12. 医療廃棄物の処理法の実際を理解できる	1) 廃棄物の性状に応じたバイオハザードマークを理解できている 2) 指導の下、施設の方法に準じた医療廃棄物の処理が確実に実施できている
チームの一員	V. チーム医療に参加して、他職種と連携・協働していることがわかる	13. 他の職種と協働している場面に参加し看護師の役割がわかる	1) 連携・協働する職種と主な役割が理解できたことを表現できている 2) 連携・協働するなかで、情報の共有の必要性が理解できたことを表現できている 3) 連携・協働する中で看護師の役割が理解できたことを表現できている
		14. チームの一員として責任ある行動がとれる	1) 自分で解決できないとき、判断に迷う時は指導者・教員に相談できている 2) その場に応じた挨拶・身だしなみ・言葉遣いができている 3) 相手の指導・助言を素直に聴くことができている 4) 対象のプライバシーに配慮し、知り得た情報を外部に漏らさない 5) 実習メンバーと協力し学習を進めることができている
自己学習・自己研鑽	VI. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的に主体的な行動の必要性がわかる	15. 自己の課題の解決、目標達成に向けて取り組むことができる	1) 実習の目的・目標、実習方法を理解できている 2) 自分で体験・実施したことの振り返りができる 3) 自己の課題を述べることができている
		16. 継続して学習する姿勢を有している	1) 事前学習・事後学習に取り組むことができている 2) 文献検索とその活用をすることができている 3) 学習ノートの作成とその活用をすることができている
看護観の確立	VII. 看護体験を通して看護のあり方を考えることができる	17. 実習での学びから、看護に対する自分の思いや考えを述べることができ	1) 実習を通しての学びから看護に対する考え方を自分の言葉で表現できている 2) 対象との関わりを通して学んだことを記述できている